

令和6年度 都城市立高崎小学校 学校評価

1 学校経営ビジョン

五氣にあふれる たか・ザ・キッズの育成 ～ 校訓「元氣、勇氣、やる氣、根氣、氣配り」～

2 学校の教育目標

教育目標		五氣にあふれる たか・ザ・キッズの育成			
めざす学校の姿	<ul style="list-style-type: none">○ あいさついっぱいの学校○ 学びいっぱいの学校○ 夢いっぱいの学校○ 美しい学校の学校○ 笑顔いっぱいの学校	めざす児童の姿	<div>元 気 たくましい子</div> <div>勇 気 チャレンジする子</div> <div>やる 気 かしこい子</div> <div>根 気 やり通す子</div> <div>気配り やさしい子</div> <div>たか・ザ・キッズ</div>	めざす教師の姿	<ul style="list-style-type: none">○ 情熱と責任をもち、職務に励む教師○ 研修に励み、指導力向上に努める教師○ 積極性・専門性のある教師○ 子供とともに学ぶ教師○ 愛情に溢れ、信頼される教師

3 学校評価の結果

「自己評価」「自己評価の適切さ」＝ 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	教育的課題	ゴールイメージと達成手段	評価指標	アンケートでの肯定的回答の割合(%)			学校の自己評価		学校運営協議委員の評価		改善策
				児童	保護者	教師	成果と課題	自己評価	自己評価の適切さ	意見等	
知育	学力の向上	○基本的な学習習慣の定着	○家庭学習を毎日している。	84	85	100	○4月の参観日の全体懇談会で家庭学習のしおりを配付・説明し、1学期に学習指導月間を設け、児童・保護者に家庭学習の習慣化について啓発することができた。 ○忘れ物が常態化している児童がいるため、今後も粘り強く指導を続けていく必要がある。 ○授業の理解については、肯定的な回答が多く見られた。学習内容を確実に定着させるための手立てを工夫したい。 ○授業でタブレットを積極的に活用しているため、スキルは向上している。しかし、使用する際のルールやモラルの遵守については課題がある。 ○発表については、教師と児童の意識の差が大きい。児童は手を挙げての発表を念頭にしているが、教師はタブレットを活用した表現や情報共有の仕方へと変わってきている。 ○対話的な学びを重視した授業により、友達の意見と自分の考えを比較しながら聞くことができる児童が増えている。 ○昨年度同時期と比べて、図書貸出数が約1600冊増えたが、自宅での読書につながっていないことで、児童・教師と保護者の回答に差が見られる。	2	2	○家庭学習については、昨年に引き続き児童・保護者・教師が高評価しており、家庭学習の習慣化が図れており素晴らしい成果である。 ○授業理解については、児童・保護者ともに評価が高い。自信と確信をもって授業をしているのであろう。 ○タブレットは、学習以外の使用について規則が必要である。 ○進んで発表しているについて、児童の肯定的回答の割合が低い。子どもの立場からすると、もっと言葉を発したいのではないか。 ○新しい授業スタイルに合わせ、タブレットで表現することも発表であることを子どもたちに理解させる必要がある。 ○聞くことの重要性が肯定的な評価に表れていることは素晴らしい。 ○読書について、保護者の肯定的回答の割合が低い。家庭で時間を決めて読書に取り組んでもらうしかないが、テレビ・スマホの視聴時間も長く、家で読書することへの必要性を感じていないのではないか。図書館サポーターによる読み聞かせ等を通して、読書好きな児童を増やすとよい。	○忘れ物が多い児童については、参観日の学級懇談会や個人面談で、保護者と情報を共有する。 ○学びタイム等を活用して、読解力を高める取組を継続して行っていく。 ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかる」「できる」授業づくりを行う。 ○学期の始めには、必ずタブレット端末を使うときのルールを再確認する。 ○子どもが主役となる学級・授業づくりを推進し、子どもたちの多様な考えをアウトプットできるよう後押しする。 ○情報モラル教育をしっかりと行う。 ○「早寝・早起き・朝ごはん・メディア」の週間等と関連させ、家で本を読む時間を確保できるような取組を考えていく必要がある。
			○学習準備物の忘れ物がない。	92	84	78					
		○基礎・基本の確実な定着	○毎日の授業がよく分かっている。	88	84	89					
		○ICT活用の推進	○タブレットの使い方が分かり、進んで活用している。	96	82	89					
		○表現力・思考力の育成	○自分から進んで発表している。	59		89					
			○先生や友だちの話をよく聞いている。	96		89					
徳育	豊かな心の育成	○基本的な生活習慣の確立	○進んで本を読んでいる。(読書が好き)	76	45	78	○県民総ぐるみのあいさつ運動や各学級のあいさつ模範運動、集い委員会によるあいさつキャンペーンを実施した。期間中は自分から挨拶をしようとする児童が増えた。 ○「心のアンケート」や定期的な面談により、児童の交友関係や悩みを把握し、児童の心に寄り添う指導を行った。 ○スクールカウンセラーとの面談希望調査を児童・保護者に実施し、計画的にカウンセリングを行うことができた。 ○無言清掃を徹底させるために、無言清掃週間・月間を定期的に実施した。放送での呼びかけや、イベントと関連付けて実践意欲を高めたことで、無言清掃が定着してきた。	3	3	○あいさつは良くしてくれるが、声が小さい。大きな声で、あいさつすると良い。 ○返事については親子間では良い関係にあるが、学校内では問題がある。気持ちの良い返事について指導し、改善を図ると良い。 ○仲良く・親切については、幼少期に人を思いやる気持ちが育まれれば、他人から慕われるので頑張っていることを学校から聞いている。今後も継続してほしい。 ○ボランティアの取組については、児童が率先して校庭の清掃を行っていることを学校から聞いている。今後も継続してほしい。	○挨拶・返事については、学校で模範運動やキャンペーンを継続しつつ、通信や学校だよりなどで挨拶や返事の大切さを啓発していく。 ○呼び捨てや乱暴な言葉づかいが見られたらその場ですぐに改善を促し、相手の人権を尊重した言動の大切さについてくり返し指導する。 ○ボランティア活動をしている児童を紹介し、称賛していく。
			○誰にでも進んであいさつができる。	83	76	67					
		○いのちを大切にすることの育成	○気持ちのよい返事をする。	83	92	56					
			○友だちと仲良くし、親切にしている。	96	97	100					
		○ボランティア心の育成	○進んで清掃やボランティアに取り組んでいる。	85		100					

項目	教育的課題	ゴールイメージと達成手段	評価指標	アンケートでの肯定的回答の割合(%)			学校の自己評価		学校運営協議会委員の評価		改善策
				児童	保護者	教師	成果と課題	自己評価	自己評価の適切さ	意見等	
		○安全教育の推進	○廊下歩行を守っている。	87		67	○移動教室で引率指導を行っている時は静かに廊下歩行ができていますが、休み時間は安全な廊下歩行ができていない児童も見られる。 ○地区集会や登校班長会で登下校のルールを指導してきたことで、一列歩行での登校はできている。登校班のトラブルについては、班員を集めてその都度指導を行った。 ○登下校の見守りをいただいているおかげで、事故なく安全に登校できた。	3	3	○廊下歩行について、児童と教師で肯定的回答の割合に差がある。この差がなぜ生じているのか、どのような指導が必要であるのかを検討する必要がある。 ○廊下歩行は、児童間で意思の疎通を図ることが大切ではないか。 ○登校時、一列縦隊で私語もなく、元気よく登校している。 ○各地区の民生委員さんが交差点等で見守られていることに感謝している。	○廊下歩行については、休み時間や昼休みの時間が課題であるため、委員会活動などで呼び掛けを行ってきたい。 ○引き続き、下校前に交通安全の誓いを唱えさせ、その意義を伝える指導を継続する。
			○交通のきまりを守っている。	97	96						
体育	体力の向上	○食育を含む健康的な生活習慣の確立	○早寝早起きをしている。	85	92		○高崎地区共通で、保護者に呼びかけ、早寝・早起き・朝ごはんの習慣化が図られた。 ○遠足の日に弁当の日を設定したことで、家庭と協力して食への関心を高めることができた。 ○感染症対策への意識が少しずつ薄れてきている。声をかけなければ、手洗い・うがいを主体的にする児童は少ない。 ○1・3・5年生で、学校栄養職員と連携した食育指導を計画・実施することができた。好き嫌いなくバランスよく食べることに關しては、課題がある。 ○運動はしているが、目標を決めて運動に取り組むことには課題がある。 ○外遊びについては、遊ぶ児童と遊ばない児童で個人差が大きい。	3	3	○早寝早起きは、保護者が決まった時間に就寝させることを習慣化するとよい。 ○朝食を抜くと、脳や体のエネルギー不足が生じ、勉強等に大きく影響するので、毎日朝食は食べてほしい。 ○手洗い・うがいについて、肯定的回答の数値が若干上がっているのので、手立てが良かったのではないかな。 ○今後も手洗い・うがいは徹底してもらいたい。 ○給食を好き嫌いなく食べることにについては、家庭でも創意工夫による献立を考えての改善が必要ではないかな。	○手洗い・うがいの大切さをしっかり理解させた上で、児童への呼びかけを継続して行っていく。 ○児童が目標を決めて運動に取り組むようにするために、授業の目標を明確に提示して授業に臨ませるようにする。 ○外遊びについては時代的に強制しにくい面もあるが体力向上のために外遊びの日を学級の実態に応じて設置してもらうようにする。
			○朝食を毎日とっている。	95	97						
			○手洗い・うがいをしている。	91	70	78					
			○給食は、好き嫌いなく残さず食べている。	80		67					
		○基礎体力の向上	○外で元気に遊んでいる。	76	84	100					
家庭・地域とともに	家庭・地域との連携	○適切な情報提供	○学校は、教育方針や教育活動などについて分かりやすく伝えている。		83		○学校便りや保健便り、学級通信等を定期的に発行し、学校の様子を伝えることができた。また、学校HPを毎日更新することができた。 ○保護者が参加しやすい、持続可能なPTA組織となるように、学年レクリエーションなどにおいてボランティア制度を導入した。 ○オープンスクールや生活科・総合的な学習の時間等において、地域の方々や素材を活用した学習・教育活動を全学年で実施した。また、5月にオープンした「にこにこひろば」を活用して花植えやお手玉づくり、ミニコンサートなどをして、地域の方と交流する機会が増えた。	3	3	○教育方針や教育活動については、学校だよりやsigfyによる連絡で内容が把握できているのではと思う。 ○ホームページはよく編集されており、児童の学校生活が確認できる。 ○「ふるさと高崎を知る学習」において、保護者が積極的に参加しており、良い雰囲気の中で学習が進められていた。 ○「にこにこ広場」のイベントなどで地域の方と交流する機会が増え、地域の方も大変喜ばれている。 ○今後は更に、地域住民と子ども達との交流を増やし、高崎町の良さを伝承していく必要がある。	○児童理解に努め、望ましい行動を明確に示しておくことによって、ポジティブな行動を生み出す環境を整え、児童のポジティブな行動を強化する。 ○今後も、地域、保護者、PTAとの連携を深め、子どもたちの健全育成に努める。 ○保護者が参加する活動を自由に、都合に合わせて選択できるPTA活動を推進し、取組後に改善策を協議する。 ○地域の方々子どもたちとの交流の場が継続するように、年間計画を立てたり、新たな企画を考えたりしていく。
			○教師は、子どものことを理解し、適切に対応している。		87						
		○家庭・地域との連携強化	○保護者は、本年度変更したPTA活動に満足している。		92						
			○高崎町が好きだと思う。	95							